

令和4年8月22日

第29回医道審議会保健師助産師看護師分科会
看護師特定行為・研修部会

資料5

滋賀医科大学における 特定行為研修の受講前学習制度について

滋賀医科大学麻酔学講座 教授

特定行為研修センター長

北川裕利



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

滋賀医科大学は
開学50周年



滋賀医科大学附属病院における修了者育成・配置・活用の実績

			平成27～30年 (2015～2018)	令和元年(2019)	令和2年(2020)	令和3年(2021)	令和4年(2022)
研修センター	構想・育成	取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年 指定研修機関 ・2016年 研修開講 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの学び方:研修コースと修士課程特定行為領域 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前学習制度設置 (附属病院内) 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前学習制度拡大 (協力施設へ) ・研修 年2回開講 定員枠増 ・全21区分, 全6パッケージ開講 ・研修コース応募要件緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学第4期中期目標・中期計画への取組み 修了者50人以上育成と急性期活用
		受入	23(院内4, 院外19)	24(院内6, 院外18)	23(院内5, 院外18)	25(院内9, 院外16)	35(院内17, 院外18)
附属病院	構想・育成	位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性・在宅領域での活用 ・専門領域の特化したスキルを有する高度実践者育成 ・1病棟に1人配置プラン 		<ul style="list-style-type: none"> ・病院のビジョン:急性期に特化した育成と活用, 現任教育の一環として全看護師の修了と活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・インセンティブ付与 ・集中治療/麻酔 重点配置
		院内派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・本人志願優先のキャリア支援型 ・受講促進:滋賀県補助金 		<ul style="list-style-type: none"> ・組織ビジョンを叶える人材派遣型 ・受講前学習制度(利用30人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修への計画的派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部受講条件:ラダー不問
	活用	5人	11人(急性6, 慢性5)	15人(急性8, 慢性7)	21人(急性12, 慢性9)	20人(急性12, 慢性8) 7月現在	
		<ul style="list-style-type: none"> ・慢性期(創傷管理)・急性期で均等に育成・活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・急性期シフト 		<ul style="list-style-type: none"> 麻酔科(2), 手術部(1), ICU(5), NICU(1), 救急(1), 外科病棟(6), 放射線部(1), 医療情報部(1), 特定行為活動支援室(1), 看護師特定行為研修センタ(1) 	

今, 少数の修了者から多数の修了者マネジメントへの転換期

特定行為研修の受講前学習制度の概要

本院又は本院の特定行為研修協力施設に所属し、特定行為研修の履修を目指す者は、履修の負担を軽減するために受講又は審査の前から当該研修の一部を履修できる。

(利用資格)

- (1) 本院又は本院の特定行為研修協力施設に所属する看護職で、本院特定行為研修の出願を、3年以内に予定している。
- (2) 実務経験年数が2年以上である。
- (3) 所属施設の管理職位者の推薦がある。

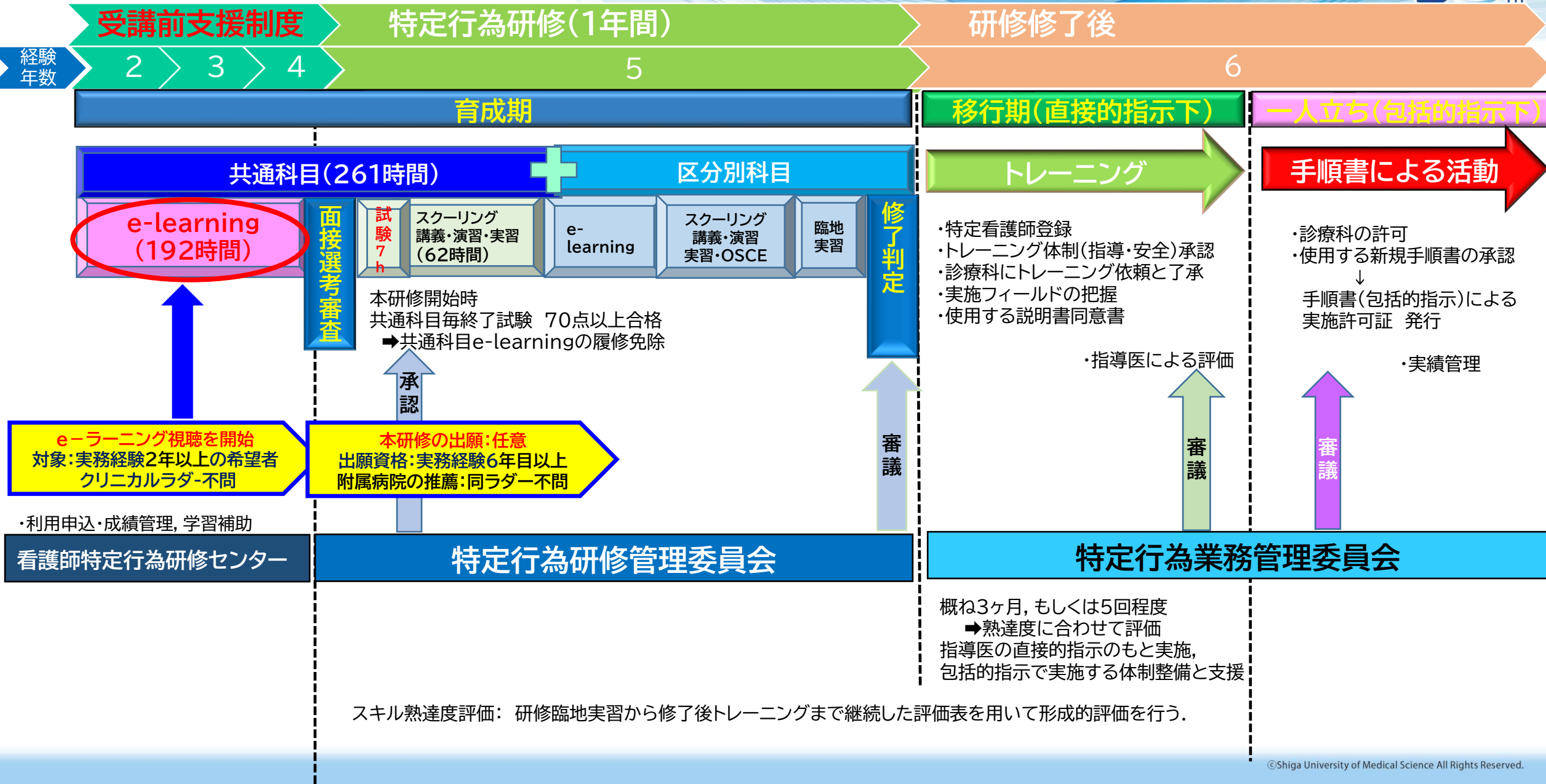
(学習内容) 本院特定行為研修の共通科目(250時間)のうち、e-learning教材視聴

(利用期間) 3ヶ月を最小単位での更新制とし、最長で3年。

(利用料) 3ヶ月10,000円。

本院看護職員には、病院が利用料を支援する

滋賀医科大学附属病院 特定行為研修の教育・活用支援システム



1. 修了者の研修修了時アンケートと実績から、
仕事と研修の両立が困難で、学習時間と実習期間の確保が課題となった。
2. 滋賀医科大学第4期(R4～R9)中期目標に修了者の育成による集中配置
とタスクシフトを含めた積極的活用を掲げた。
さらなる育成が必要。

本学研修修了者の研修修了時アンケート(2018-2020:3年間)と実績からの課題

研修期間1~1年半

共通科目6→4ヶ月

区分別科目2→4ヶ月

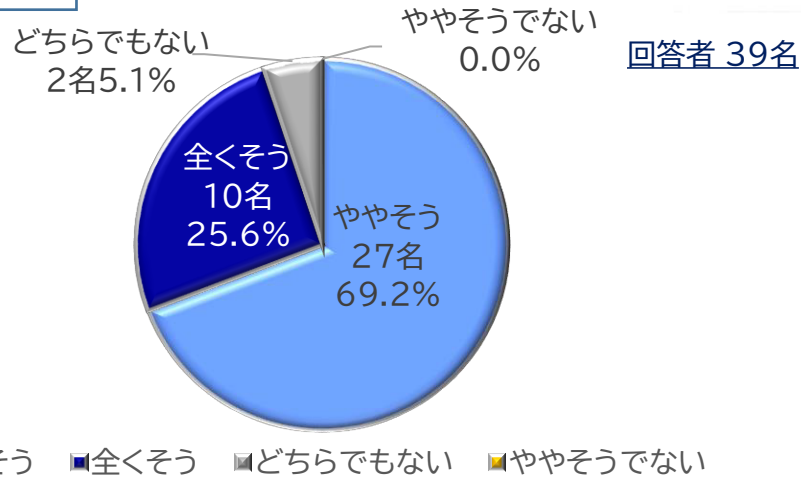
OSCE

実習 4→6ヶ月

研修生の3割 実習を延長

2018~2020年度

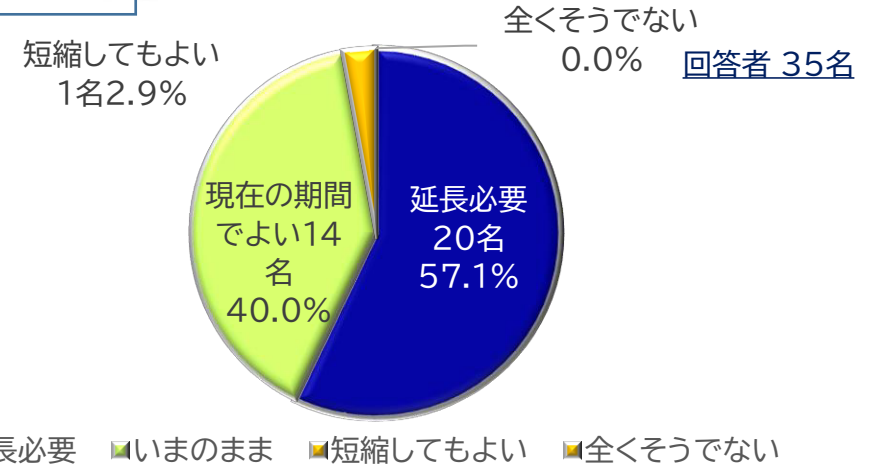
仕事との両立は難しいか



2018~2020年度

実習期間

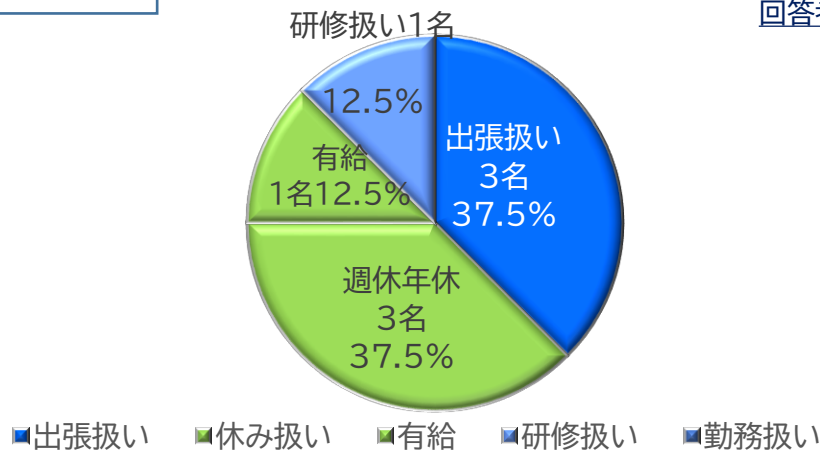
39 / 58 名(回収率 67.2%)



2018年度

研修の勤務上の配慮

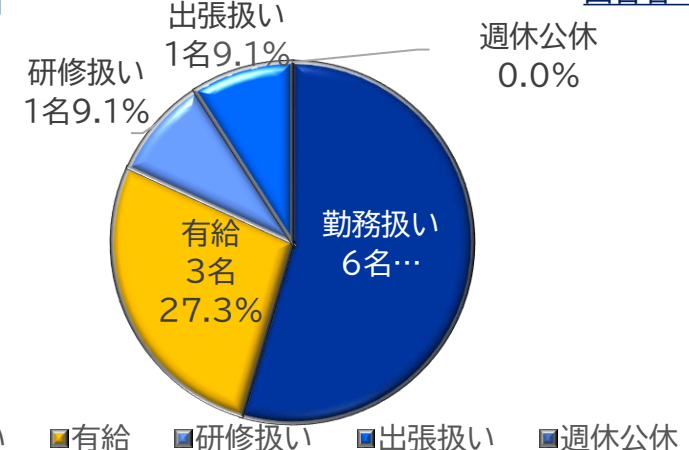
回答者 8名



2020年度

実習の勤務扱い

回答者 11名



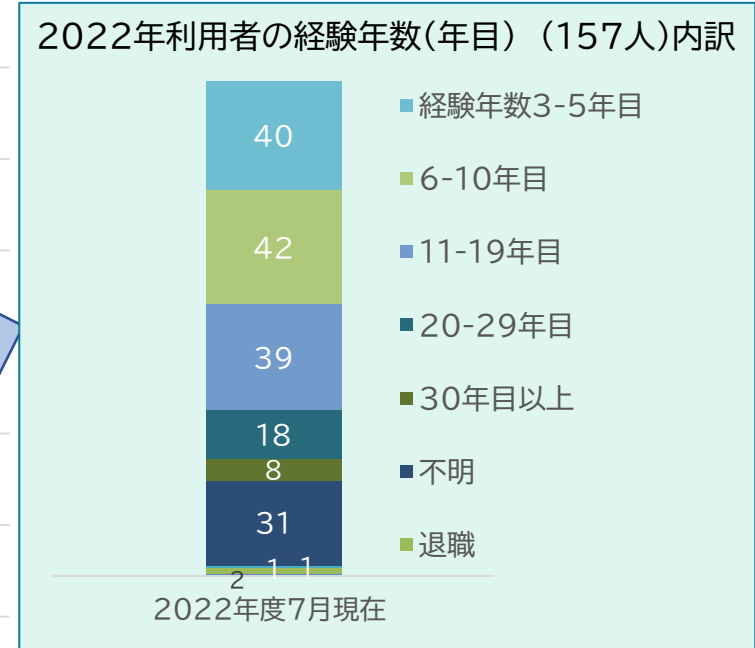
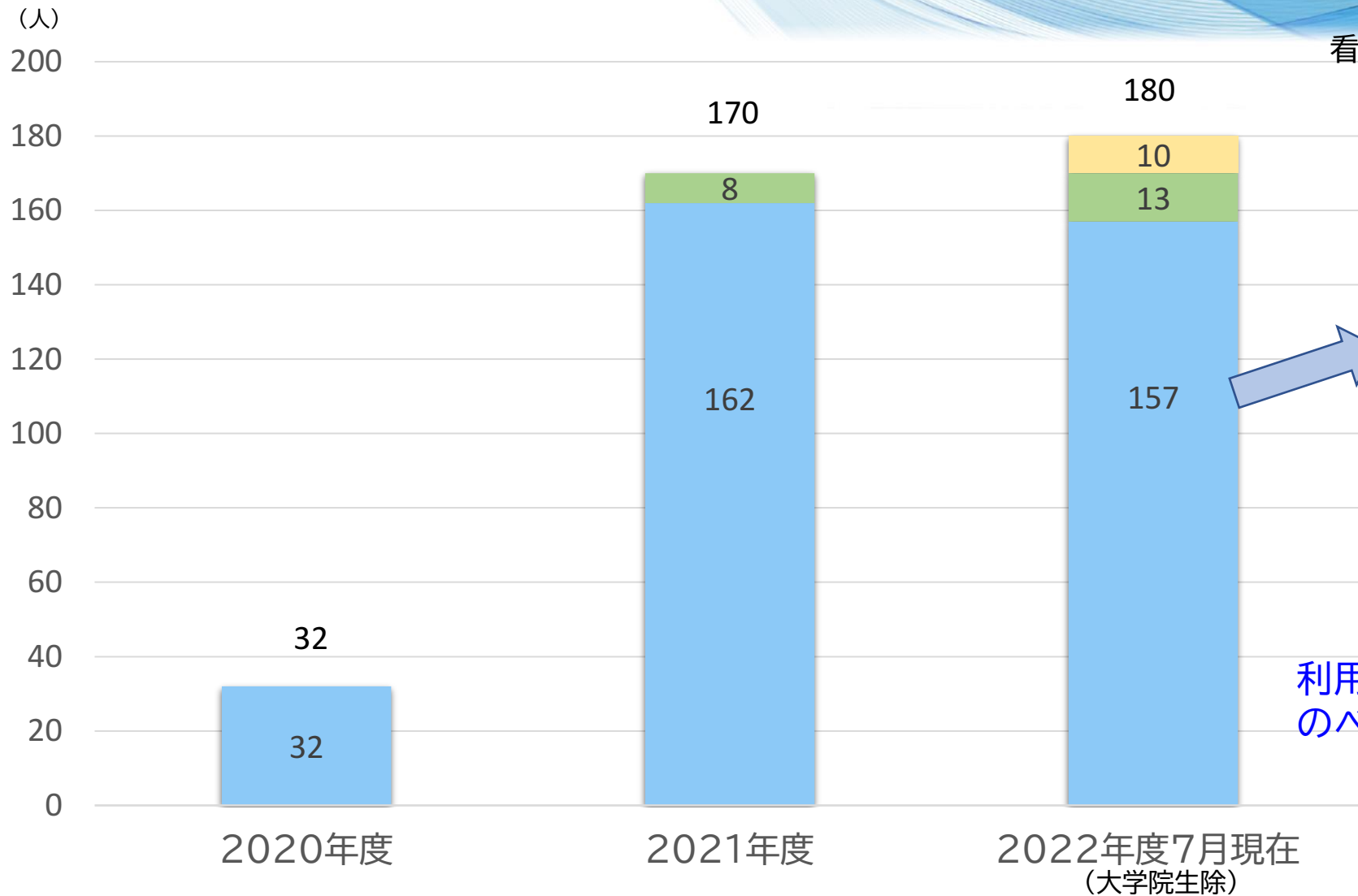
課題:仕事と研修の両立が難しく、さらに学習時間と実習期間の確保が必要

受講前学習支援制度の利用モデル(令和4年度4月～研修生)

	A氏 (経験13年)	B氏 (経験11年)	C氏 (経験6年)	利用なし D氏 (経験15年)
履修する特定行為区分	急性期・周麻酔クラス (ICU管理加算 8区分)	急性期・周麻酔クラス (ICU管理加算 8区分)	慢性期・在宅クラス (呼吸・血糖 3区分)	急性期・周麻酔クラス (呼吸・循環 6区分)
申込み時期(利用期間)	令和3年7月(9ヶ月間)	令和3年10月(4ヶ月)	令和3年6月(4ヶ月)	
e-learning学習の工夫	5～6コマ/休日	平日2コマ/毎日 昼食をとりながら。 可能な時, 5コマ/休日も。	5～6コマ/休日 夜勤明けの夜 1～2コマ	平日3コマ/毎日 夜勤前1コマ
本研修開始日までに終えた e-learning	共通科目の75%	共通科目の70%	共通科目の63%	
本研修開始日(4月)までに 終えた科目修了試験数/共 通6科目	5科目	2科目	1科目	該当なし
共通科目の全科目修了試験 を終えた時期	本研修受講後, 0.5ヶ月(4月 上旬)	2ヶ月以内(5月)	2ヶ月以内(5月)	3ヶ月以内(6月)
仕事と研修の両立に対する 評価(区分別科目履修中)	研修の負担感 2/10点 仕事の負担感 5/10点 楽に受講できた。	研修の負担感 2/10点 仕事の負担感 6/10点 負担に思わなかった。	研修の負担感 4/10点 仕事の負担感 8/10点 楽しみながらできた。	研修の負担感 6/10点 仕事の負担感 7/10点 しんどいけど学び直しがで き, 受講して良かった。

本院看護師の受講前学習制度 利用者数(19ヶ月間累積)

看護職員 672人(常勤換算636.5)



利用者のうち、
のべ21人が本学特定行為研修を履修した

■ 受講前学習制度利用者数 ■ 特定行為研修生となった(本研修受講開始)数 ■ 修了者

受講前学習制度の実績

- 本院 総看護師数 672人(常勤換算636.5人)
- 実施期間 2020年9月～2022年7月(19ヶ月間)
- 本院利用者の属性
 - 利用者数 180人(利用率 26.8%)
 - うち特定行為研修に進んだ者 21人(進学率 11.7%)
(急性期・周麻酔クラス13人, 慢性期・在宅クラス2人, 集中治療パッケージ1人, 救急パッケージ5人)
 - 看護実務経験年数(年目) 12.0±8.20年
- 協力施設(院外)の利用者数 3人

まとめ

- 附属病院は2016年より修了者を育成，急性期・外科領域での活用にシフトし，現在20人を配置している。
- 本学の特定行為研修は，仕事と研修の両立に9割が困難感を持ち，学習時間と実習期間の確保が課題であった。
- 対策として，滋賀医科大学附属病院が独自開発する「特定行為研修の教育・活用支援システム」に，「受講前学習制度」を設置した。
- 当院の受講前学習制度の利用者は，19ヶ月間で180人（利用率26.8%），うち特定行為研修に進んだ者は，21人（進学率11.7%）であった。
- 今後は，「受講前学習制度」の仕事との両立，負担軽減への有効性と「特定行為研修の教育・活用支援システム」の評価が必要である。